

目的

根源的に「困った」状況のとき、チームで問題解決にあたるための検討、スーパービジョンの方法。

・ {ストレングス、キーパーソン、地域資源} が見いだせない。

・ ケアプランの優先順位がつけられない など

← 担当者単独での意志決定が困難。 (いきづまった・どうしたらいいの?・悩んでいる・迷っている)

けーすた。で使う様式

様式は、本紙一番下にある Web サイトからダウンロードできます。

① 事例概要 ② スtrenグスアセスメント票

※事例は…

できるだけ **目的** に合致したもの。※虐待や危機介入ケースなどはなじまない。

¶ 支援の方向性の検討やインフォーマルな資源を含めたアイデア出しなどに効果的。

流れ（セッション①～セッション⑥）

- ① 報告セッション 「簡素なスケッチ」 15分程度(長くはない時間)。
 (事例の要点整理) …簡潔に、ポイントを整理し、求めたい助言内容を的確に伝える
- ② 質問セッション 15～20分程度(長くはない時間)。 質問のみ。意見は③で。
 本人と環境の両方のストレングスに着目する。
 個人の3要素: ^{アスビレーション}熱望・^{コンピテンシー}能力・自信
 環境の3要素: ^{リソース}資源・関係・機会
 次のアイデア出しセッションのために必要な質問へと焦点化する。
- ③ アイデア出し
 セッション ブレインストーミング(最も時間をとる: 30～60分程度)
事例提供者は黙り、アイデアを記録(=事例提供者への質問は禁止!)
 実現可能性はまずは考慮せず、柔軟な発想で。しかし具体的に。
- ④ アイデア出しの整理 ファシリテータがアイデア出しセッションのまとめをする。
- ⑤ 応答セッション 事例提供者がアイデア出しに対しコメントする(比較的簡単に)。
- ⑥ トップ3の選定 アイデアの中から有益なものを3つ選ぶ(ファシリテータ)。

注意点 ☆ストレングスに着目したワークショップ的手法

- 前の項目 **流れ** ①～⑥の中で、時間の使いかたを明確に区別(何をするセッションかを意識)。
- 誰もが水平な立場で参加し、発言すること。
 - ・ 他人の批判をしない(ただし、発言の根拠は求めてよい)。
 - ・ 妥当性や実現可能性はまずは考慮せず、まずは自由な意見交換をするとよい。
- すべての人が「役割」を意識すること。(ロールプレイ的であること)
 - ・ スーパーバイザー(スーパービジョンを受ける人): 事例提供者
 - ・ スーパーバイザー(スーパービジョンを与える人): 事例提供者以外の参加者全員 ¶
 - ¶ スーパーバイザーの中から一名、ファシリテータ(司会)を選出。けーすたでは固定。

けーすた。について

毎月第2火曜日 18時半～ ねこのてにて Web: <http://www.kuroneko.or.jp/ks/>
 メールングリストへの登録: fjk@kuroneko.or.jp までメールください。登録します。